

□ 自主防災活動への取り組み

伊勢市宮後町

厚生防災隊宮後第一分隊

伊勢市は、古来お伊勢さんの名で親しまれている神宮の森と宮川、五十鈴川に囲まれた二千年の浪漫が息づく町です。

人口は 10 万人余の小さな町ですが、名所旧跡など長い歴史のかおりたどよう、温暖な気候に恵まれたすばらしい町です。

伊勢神宮のお膝元に位置するのが伊勢市厚生防災隊宮後第一分隊です。当地区は伊勢市の駅前に位置し、商店等の密集した商業・経済の中心地区といえます。

昭和 54 年 12 月我が町の厚生児童公園内に、国庫補助事業により半径 300m 以内を守備範囲とする 100t 耐震性貯水槽、可搬式ポンプ及び収納庫が設置されました。不可能を可能にした公園内への設置の経緯は、並々ならぬものがあつたと思います。

その設置をきっかけに厚生防災隊一志防災隊、本町防災隊、一之木防災隊、宮後防災隊が結成され、その宮後防災隊の 1 分隊として結成されたのが我が宮後第 1 分隊です。

発足時は、町内会の役員において半強制的に約 35 人の隊員が選ばれて結成されましたが、その後徐々に隊員の意識には、自発性、自主性が芽生え、現在では 4 月から 11 月までの第 1 日曜日を訓練日、毎月 10 日を例会日と定めて、活動を行ってきました。

結成当初の訓練は、作業衣やトレーナーといった服装でしたが、その後、町民からの寄付により制服、消火栓ボックス、防犯灯、避難標識、消火器等を整備しました。



宮後一丁目消火栓ホース格納箱消火器配置図



写真1 消防器具取扱訓練

消防署員の指導のもと、ロープ結合、ホース延長、歩行訓練、放水訓練等を行い、徐々に全員の体裁が整うまでになりました。

その後、現在に至るまで20年近くにわたって途絶えることなく活動を続けてきました。今までに行ってきた主な活動は次のとおりです。

(1) 町会での初期消火等訓練

毎年11月23日の勤労感謝の日に町会で初期消火訓練等を実施し、町民の防災意識の高揚を図っている。

- ①地震体験車の体験
- ②救助工作車、はしご車等の展示
- ③ミニ消防車による消火訓練(子供に人気がある)
- ④消火器による初期消火訓練(オイルパン、段ボール箱等)
- ⑤放水訓練
- ⑥防災クイズ大会

(2) 夜警活動

毎年12月～3月の間において、夜間「火の用心」の連呼による夜警巡回を行っている。

5人1組でスピーカー、拍子木、無線を持って、町内を巡回している。

(3) 出初め式

1月5日～7日に伊勢市消防団の出初め式が開催される。その際には厚生防災隊からも、毎年1～2人が参加している。

(4) 防災みやじりかわら版

厚生防災隊宮後第1分隊の機関誌である「防災みやじり」を年1回～2回程度発行している。

内容:新隊員の紹介、記念行事、事業等について掲載

(5) 防災カレンダー作成

厚生防災隊宮後第1分隊の行事及び「春の火災予防運動期間」など、防災に関するカレンダーを作成し、町会員に対し周知している。

町内の商店等から広告を募集掲載して作成し、町内全戸に配布している。

(6) 家族会

親子のふれあいなど町内会のコミュニケーションを図るため、「家族会」を毎年11月23日夜6時より開催している。

70人から80人が参加するが、焼き肉、おでん、焼きそばなどを隊員が作り大好評である。災害用パック入りご飯の試食なども行っている。

コミュニティとしての結束を固めるために役立っている。

(7) 廃品回収

リサイクルの推進と宮後第1分隊の活動資金捻出のため、毎年5月と11月の2回廃品回収を実施している。

この売却代金は、防災隊の活動資金、防災資機材購入経費に充てている。



写真2 例会の状況

毎年3～5万円程度の収入がある。

(8) 献血運動

地域への貢献の一環として献血運動を昨年から実施している。

(9) 例会・総会

例会は毎月10日に開催、また毎年5月に総会を開催して、事業計画等を決定している。

(10) 対夕粕勺活動

市の総合防災訓練、県主催の防災研修会、リーダー研修会等には積極的に参加している。

(11) その他

平成元年5月20日に10周年記念行事を開催した。



写真3 十周年記念式典

市長、県会議員、市議会議員、消防長も参加し、感謝状の贈呈等が行われた。

(12) 災害出動の記録

昭和54年の発足以来、14回の火災に出動した。そのうち、昭和56年2月2日の民家5戸の火災では、人命救助により消防本部から感謝状を受けた。

近隣町内会の火災には1番乗りをし、初期消火につとめ、大火災を未然に防いでいる。

以上のような活動を続け現在に至っています。

隊の収納庫には、宝くじ協会からの助成を受けて購入した防災用資機材の他、隊員の創意工夫により持ち寄った資機材が保管されています。可搬式小型動力ポンプについては、毎月1回の訓練を行っているため、常に出動できるよう整備されています。

また、町内からの募金、廃品回収による資金により購入した消火栓ボックス、消火器ボックス等も町内に設置されており、過去幾多の火災において初期消火に役立っています。

隊員は、商店主、サラリーマン、医師等で構成され、現在は約27人です。

そして昨年、地元小学校に待望の耐震性の350tのプールが完成しました。ここには、阪神大震災を教訓に伊勢市が緊急浄水システムを設置しました。このプールは耐震構造になっており、地震があった場合は緊急遮断弁が閉まり、プールの水が飲料用や消火用として確保されます。この水を緊急浄水システムに送って浄化すれば飲料水として使用できるというものです。昨年11月23日には、恒例の訓練と家族会の一つの行事

として市の教育委員会から説明を受け、実際にプールの採水口にホースをつないで放水訓練を行いました。これにより、大震災発生時の飲料水や合計520tの消防用水が確保されたことは、防災隊はもとより町民の方々にも心強いものと信じます。

三重県では、阪神・淡路大震災以後、自主防災組織の結成促進、育成強化に大変力を入れて取り組まれており、県内の組織結成に向け、本隊作成の活動ビデオ等を県内でご紹介いただいています。昨年7月には、県議会厚生常任委員会の視察を受けました。隊の活動を説明し、資機材の収納庫を見学していただきました。

地域の高齢化により、隊員の平均年齢が50歳前後となってきた等の問題もありますが、例会を重ね、コミュニケーションを大切

にしていくことが前進の源と信じて活動を続けています。

最後になりましたが、現在三重県の自主防災組織の組織率はH9.12.1現在で53.4%と聞いておりますが、伊勢市は48.5%で県の平均組織率より低く位置しています。

自主防災組織は、伊勢市の全地域に結成されてはじめてその効果が発揮できるものと考えられますので、伊勢市のみならず県内全域に自主防災組織が結成されることを強く望んでいます。

今後は、私どもは伊勢市の未結成地域の方々に結成を積極的に働きかけ、伊勢市の全ての地域に自主防災組織が結成され、伊勢市の安全の確保がより一層図られるようにすることが大切なことだと考えています。